

安全なスポーツ環境の構築に向けた調査研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科
トレーナー・スポーツ経営コース 准教授

原田 長 Harada Takeru

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: スポーツ外傷/障害予防・学校保健・脳振盪・アメリカンフットボール

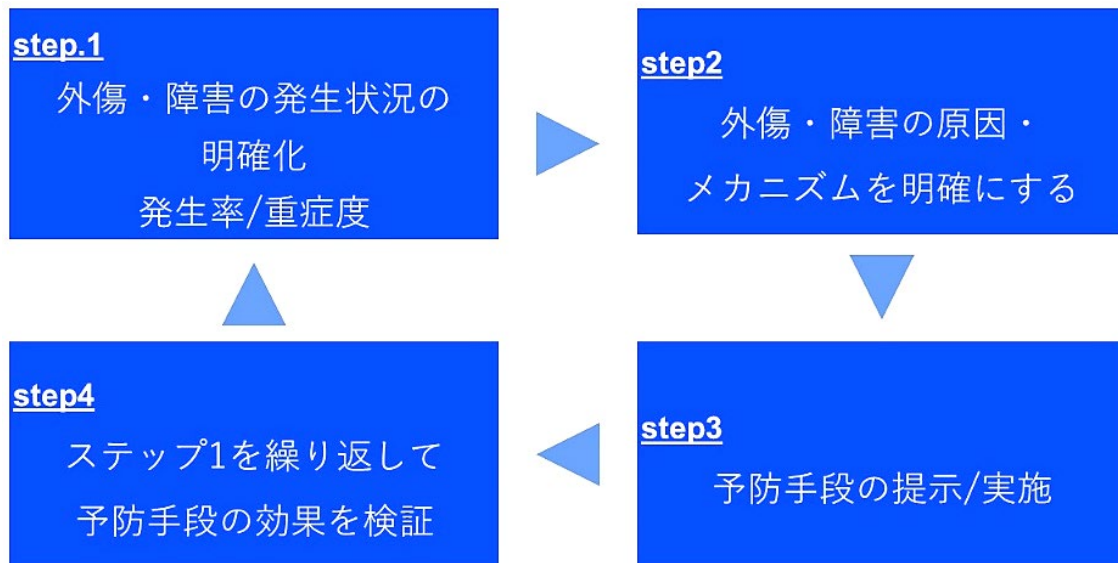


研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

スポーツ活動は日常生活レベルと比較して、その多くが高い身体負荷が加わるため、外傷・障害や重大事故が起こる可能性が少なくない。

スポーツ外傷・障害予防の進め方として van Mechelen らが用いた 4 段階モデルが頻繁に用いられている。



van Mechelen, 1992 改編

まず第 1 段階として外傷・障害の発生率や重症度を明らかにすること、第 2 段階としてそれらを引き起こすリスクファクターやメカニズムを明らかにすることである。これに基づき予防する取り組みを導入していく。

そこで、現在は下記 2 つの領域についての疫学的な調査研究を実施している。

1. 学校現場（体育・部活動）における重大事故/スポーツ外傷・障害の発生状況
2. アメリカンフットボールにおける脳振盪/スポーツ外傷・障害の発生状況

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

学校部活動の地域移行化が推進される中で、疫学的なデータは、スポーツに携わるコーチ、選手に向けた教育プログラムや啓発活動に活かすことが可能と考える。事故の原因や予防策に関する情報を広めることで、スポーツ参加者や関係者の意識が向上し、事故発生率の低減が期待され、安全なスポーツ環境の構築につながる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】

- ・「本邦における児童生徒の体育・スポーツ活動中の死亡事故データの分析」
- ・「コロナ禍をはさむ大学生アメリカンフットボール選手における脳振盪の発生状況」